

# 養殖衛生管理体制整備事業

河口 真弓・松本 日向乃・梅田 智樹

養殖漁場環境の維持、魚病の発生防止と被害の軽減、養殖生産物の食品衛生上の安全確保等は重要なものとなっている。これらの課題に対処し、健全な養殖業の発展を図るため、養殖衛生管理体制整備事業を実施した。

## 内容および結果

### 1. 総合推進対策

#### 1) 全国会議（全国養殖衛生管理推進会議）

開催時期	参加方法	主な内容
3月19日	WEB	1. 水産防疫の実施状況等 2. 水産防疫対策事業の成果概要 3. 養殖魚の迅速な診断体制に向けた対応

#### 2) 地域検討会（九州・山口ブロック魚病分科会）

開催時期	開催場所	主な内容
10月30日、31日	福岡県福岡市	各県の魚病発生状況等

#### 3) 県内会議（佐賀県養殖衛生対策会議）

開催時期	開催場所	主な内容
3月5日	佐賀県唐津市	・玄海地区における令和5年度魚病発生状況、出荷前検査及びワクチン接種前検査等 ・令和5年魚病被害・水産用医薬品アンケート調査結果 ・令和6年度養殖日誌記帳調査結果 ・各地区における漁場改善計画の取組状況

### 2. 養殖衛生管理指導

#### 1) 医薬品の適正使用の指導

実施時期	実施場所	主な内容
4月～3月	佐賀県玄海地区	・水産用医薬品の適正使用について

#### 2) 適正な養殖指導管理・ワクチン使用の指導

実施時期	実施場所	主な内容
4月～3月	佐賀県玄海地区	・養殖管理、漁場環境の維持及び水産用ワクチンの使用について
1月～3月	佐賀県玄海地区	・養殖日誌記帳調査（上期・下期分収集）

※ 令和5年度はワクチン使用の指導実績なし

### 3) 養殖衛生管理技術の普及・啓発

#### 養殖衛生管理技術講習

実施時期	実施場所	主な内容
3月17日	佐賀県唐津市	「魚類養殖における赤潮等への対策について」 九州大学農学研究院 教授 太田耕平氏

### 3. 養殖場の調査・監視

#### 1) 養殖資材の使用状況調査

実施時期	対象資材	主な内容
5月～6月	水産用医薬品 その他の薬剤	養殖業者へのアンケート調査

#### 2) 医薬品残留検査

検査の結果、残留基準値未満であった。

調査時期	検査方法	対象医薬品	対象魚種	検体数
12月11日、2月13日	液体クロマトグラフ質量分析法	オキシテトラサイクリン	ブリ	1
	微生物学的検査法	エリスロマイシン	ヒラマサ	1
ブリ			1	
			ヒラマサ	1

注) 残留検査の検体数は、同一個体から採取した場合でも、分析した医薬品の種類や部位が異なる場合、別の検体として数えた。

#### 3) 薬剤耐性菌の実態調査

実施時期	対象魚種	主な内容
4月～3月	マサバ、トラフグ、クエ 等	病魚から分離した病原細菌を用いたディスク試験

### 4. 養殖衛生管理機器整備

実績なし

### 5. 疾病対策

#### 1) 疾病監視対策

実施時期	対象魚種	主な内容
4月～3月	ブリ、マダイ、マサバ、トラフグ 他	養殖漁場における疾病監視、防疫対策指導

#### 2) 疾病発生対策

実施時期	対象魚種	主な内容
4月～3月	ブリ、マダイ、マサバ、トラフグ 他	疾病検査・診断、疾病の被害と伝播の防止

### 3) 仮屋湾養殖マダイ及びトラフグの白点虫寄生状況モニタリング調査

平成22年度に佐賀県東松浦郡玄海町の仮屋漁業協同組合の魚類養殖漁場において、白点虫により養殖マダイが大量斃死したことから、平成23年度以降継続して、白点虫寄生状況モニタリング調査を実施している。令和6年度は9月24日から11月20日にかけてマダイとトラフグについて計9回検査を行った。検査日における各魚種の1鰓弓あたりの白点虫の最高確認個体数を表1に示す。

### 4) 魚病の診断

表2に魚病の診断件数を示す。なお、導入種苗時の健康診断や輸出にかかる検査の健康診断についても含めている。

令和6年度は、計35件、10魚種について診断した。最も多かった魚種はマサバ（12件）であった。

また、8月の診断件数が、例年よりも多かったことについては、7月末から8月中旬にかけて高水温が続いた影響による代謝異常が一因と思われる。

### 5) PCR法による検査

細菌性溶結性黄疸、レンサ球菌症 (*L.garviae, S.iniae*)、*V.harveyi*、粘液胞子中性やせ病、及び棘抜け症の診断において、PCR検査を行った（表3）。

表1 仮屋湾養殖マダイおよびトラフグの白点虫モニタリング調査結果

検査月日	マダイ		トラフグ	
	検査尾数 (尾)	検査結果 (個体数) <sup>※</sup>	検査尾数 (尾)	検査結果 (個体数) <sup>※</sup>
9月24日	2	0	2	0
10月1日	2	0	2	0
10月8日	2	0	-	-
10月15日	2	0	2	0
10月22日	2	0	-	-
10月29日	2	0	2	0
11月5日	2	0	2	0
11月12日	2	0	-	-
11月20日	2	0	2	0

※検査日における1鰓弓あたりの白点虫の最大確認個体数

表2 魚病の診断件数

(件)

魚種名	病名	月												計		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
トラフグ	ピブリオ病					1										1
	ピブリオ病 ( <i>V.harveyi</i> )				1											1
	白点病								1							1
	魚病所見なし(健康診断)		1		1	1										3
	不明								1			1				2
マサバ	ピブリオ病			1	1	1		2								5
	ピブリオ病 ( <i>V.harveyi</i> ) + ハダムシ							1								1
	ピブリオ病 + レンサ球菌症(種不明)					2										2
	不明				2			2								4
ブリ	不明	1														1
	輸出にかかる検査(健康診断)										2	1				3
マダイ	不明									1						1
ヒラマサ	不明					1										1
シマアジ	低水温による代謝障害													1		1
	魚病所見なし(健康診断)					1										1
クエ	ピブリオ病 ( <i>V.harveyi</i> )					1										1
	VNN(ウイルス性神経壊死症)(疑い)								1							1
	不明													1		1
クルマエビ	不明					2										2
アカウニ(種苗)	棘ぬけ症														1	1
アカウニ(天然)	不明														1	1
令和6年度		1	1	1	5	10		5	2	2	2	2	1	3		35
令和5年度		2	7	2	7	1	3	2	2	3	2	1	0			32
令和4年度		1	0	4	4	3	2	2	1	0	0	1	1			18
令和3年度		2	1	2	0	6	4	0	0	1	0	1	1			18

表3 PCR法による検査

検査No.	検査名	受付月日	検査月日	魚種	サイズ	検査結果	備考
1	細菌性溶結性 黄疸	4月30日	5月1日	ブリ	1.5~1.8kg	(-)	
2	レンサ球菌症 ( <i>L. garviae</i> , <i>S. iniae</i> )	4月30日	5月1日			(-)	
3	レンサ球菌症 ( <i>S. iniae</i> )	7月24日	7月26日	トラフグ	15.9~17.7cm	(-)	
4	<i>V.harveyi</i>	7月30日	9月6日	トラフグ	14.9~15.9cm	(+)	
		7月31日		マサバ	17.0~21.6cm	(-)	
		8月3日		マサバ	11.5~12.7cm	(+)	
		8月14日		トラフグ	17.6~17.7cm	(-)	
		8月16日		クエ	44cm	(+)	
		9月4日	マサバ	8.3~9.0cm	(+)		
5	粘液胞子中性やせ病	11月1日	11月7日	トラフグ	30.3~31.1cm	<i>S. fugu</i> (+) <i>E. lei</i> (-)	
6	刺抜け症	3月4日	3月6日	アカウニ	4~6cm	(+)	4個体
7	刺抜け症	3月6日	3月7日	アカウニ(飼育水)	-	(+)	種苗生産施設
8	刺抜け症	3月10日	3月11日	アカウニ(飼育水) 天然アカウニ	- 6~8cm	(-)	種苗生産施設 2個体
9	刺抜け症	3月11日	3月11日	アカウニ	3~5cm	(-)	海面養殖
10	刺抜け症	3月18日	3月18日	アカウニ(飼育水)	-	(+)	種苗生産施設
11	刺抜け症	3月25日	3月25日	アカウニ(飼育水)	-	(-)	種苗生産施設